



日本は、台風や地震が多く、それによる水害などの被害が、毎年各地で発生しています。

国土交通省の調べでは、過去 10 年間で 90% 以上の自治体が浸水や津波、土砂崩れなどの水害の被害を受けています。

本市は海と山に挟まれ、地形の起伏も激しい上に、久慈川や茂宮川といった一級河川を始め、住宅や市街地の付近にも多くの河川があるなど、豊かな自然に恵まれる一方で、気象条件によっては水害に見舞われることが考えられます。

今回の特集では、「災害は必ず起きるもの」と考え、大雨による水害に備え自身や家族の身を守るためにはどのような行動が必要か、被害を減らす「減災」の取組についてご紹介します。

令和元年東日本台風（台風 19 号）の大雨で増水した榊橋付近の久慈川の様子

特集

いつか来る水害に備えて

防災 → 減災

問合せ 防災対策課 ☎ 内線 340

防ぐ「防災」から
減らす「減災」へ

「減災」とは、災害、または災害による被害は生じるものという考えを前提とし、被害を最小限に抑えるために備える取組のことです。

かつては、災害を未然に防ぐ、または災害による被害を限りなくゼロにする「防災」の考えに沿って対策を行うことが主流でした。しかし、東日本震災など大災害を経験したことで、実際には全ての災害を防ぎ、被害をゼロにすることは難しいと認識が変わっていき、現在では、「減災」の考え方が広まっています。

災害による被害を最小限に抑えるためには、自分自身の身を守る「自助」、地域や近所の方とともに助け合う「共助」が大切です。



川の水があふれる前に 確認しよう！

減災の6つのポイント



Point 01 ハザードマップを確認しよう

洪水ハザードマップは、川から水があふれた時に、どの地域が危険なのか色で示したもので、色が濃いほど危険性が高いことを表します。ハザードマップは市役所や各支所で配布しているほか、市HP（下記QR）や地域情報アプリ「ひたちナビ」でも公開しています。



市HP



Point 02 避難の方法を知る

洪水や土砂災害などの災害リスクがある地域に自宅がある場合、災害時には避難が必要となります。ハザードマップのほか、避難場所などの防災情報が記載された防災マップを参考に、避難場所や避難経路を確認しましょう。



浸水時の避難の際のワンポイントアドバイス

- 長靴は水が入り重くなるので履かない！
- 氾濫水は濁っていて足元が見えないため、棒などで確認しながら行動しましょう！

Point 03 家庭での話し合い

実際に災害が発生した時のことを想定して、事前に家族一人ひとりの役割分担や離ればなれになった時の連絡方法などを決めておきましょう。



Point 04 近所とのつながり

水害に関わらず、災害に遭った際は、近所の方との助け合い、いわゆる「共助」により命が救われることもあります。地域の防災訓練に参加するなど、日ごろから近所の方とのつながりを大切にしましょう。



Point 05 防災情報の入手手段を知る

災害時には、さまざまな媒体で防災情報を広報しています。どの媒体から情報を入手するか確認しておきましょう。



情報	ポイント	主な情報の入手先
天気	・台風の強さや進路 ・雨量 ・今後の見通し	・気象庁 HP ・日立市天気相談所 HP
川	・近くの川の水位 ・上流の川の水位 ・氾濫情報	・川の防災情報 HP ・河川情報システム HP
避難	・避難勧告や指示 ・避難所の開設状況	・市 HP ・ケーブルテレビ行政放送 ・防災行政無線 ・FM ひたち

Point 06 非常持出品の準備

非常持出品は、避難する際に自宅から緊急的に持ち出すものです。家族で話し合い、置き場所を決めて保管するようにしましょう。



非常持出品チェックリスト

- 飲料水 食料品（日持ちするもの）
- 着替え ビニール袋 薬（常備薬）
- お薬手帳 保険証 タオル 除菌シート
- 懐中電灯 携帯電話 充電器 貴重品
- 家族に必要なもの（おむつ、生理用品など）
- 大きめのごみ袋（即席ポンチョにも） など



水害に備えて 久慈町に住む立川さん家族が体験

マイ・タイムラインを作ろう

家族で話し合い 避難行動計画を

減災のポイントの一つである「家族での話し合い」。

水害から自分自身や家族の身を守るためには、適切なタイミングで避難することが極めて重要です。水害の怖いところは、時間の経過とともに、いつの間にか道路や河川の状態などが悪化していくため、避難するタイミングを逸してしまうところです。

避難について家族で真剣に話し合い、事前に避難するための行動をまとめた計画「マイ・タイムライン」を作成しましょう。

マイ・タイムラインとは

水害時の行動計画表（タイムスケジュール）のことです。

自分自身の家族構成や生活環境を踏まえて、自分自身の洪水リスクを把握し、あわてずに逃げる準備を整えるなど、いつ何をするのか整理しておくことが重要です。



マイ・タイムラインの作り方

まずは下調べから

早速作ってみよう！

● 洪水ハザードマップで確認

- ・あなたの住んでいる場所の浸水深はどのくらい？
- ・あなたの住んでいる場所は ***家屋倒壊等氾濫想定区域**？
*家屋の倒壊・流出をもたらすような激しい流れがくる地域

● 家庭の状況を確認

- ・車はありますか？（何台）
- ・ペットは飼っていますか？
- ・持病薬はありますか？
- ・高齢者・乳幼児・障がい者・妊婦など避難に支援が必要な人はいますか？

● 避難先の確認

- ・あなたが避難する場所は？（市内外問わず）
 - 洪水ハザードマップに記載されている避難所は？
 - 親戚・知人の家は？
 - もし逃げ遅れた場合、近くに浸水しない場所は？

① ハザードマップを確認

- ② シールに必要な行動などを記入
- ③ 立川家が常備している持出袋の中身を確認
- ④ シールをマイ・タイムラインの行動計画内に貼りつけ完成



右記QRからマイ・タイムラインを作成することができます。
みなさんも作成してみましょう。



マイ・タイムラインのイメージ

水害発生までの残り
時間と周囲の状況

*時間は目安です。

3日前

台風が発生

1日前

台風が近づいて、雨
や風がだんだん強くなる

半日前

雨が集まって、川の
水がだんだん増える

5時間前

激しい雨で、川の水
がどんどん増えて、河
川敷にも水が流れる

3時間前

川の水がいっぱい
あふれそう

水害発生！

川の水が氾濫

行政から発信される情報

【警戒レベル1】
早期注意情報

【警戒レベル2】
大雨・洪水注意報

河川：氾濫注意水位に到達
(久慈川 3.70m、茂宮川
2.40m、十王川 1.70m)
氾濫注意情報発表

【警戒レベル3】
高齢者等避難が発令

河川：避難判断水位に到達
(久慈川 6.30m、茂宮川
2.80m、十王川 2.00m)
氾濫警戒情報発表

【警戒レベル4】
避難指示が発令

河川：氾濫危険水位に到達
(久慈川 6.70m、茂宮川
3.10m、十王川 2.40m)
氾濫危険情報発表

【警戒レベル5】
河川：氾濫が発生！
氾濫発生情報発表

避難するまでにやるべきこと

- テレビやラジオで台風情報を確認する
- 避難先、移動手段、移動時間を再確認する
- 家族の予定を確認する
- 川の水位を確認する
- スマートフォンなどを充電する
- 避難するときに持っていくものを確認する

余裕がある場合には、近隣のお年寄りや妊産婦、障害のある方などに声かけするなど、避難が困難な方にも配慮しましょう。

- 高齢者など避難に時間がかかる人は避難を始める
- 動きやすい服装に着替える

- 安全な場所へ全員避難する

**警戒レベル3・4
で全員避難！！**

もし逃げ遅れたら…

近くの丈夫な建物の2階以上に避難して、救助を待つようにしましょう。



東日本大震災を経験して、非常持出袋を揃えたり、大雨などの際は河川の水位を確認したりしてきました。今回、避難行動について改めて家族みんなで話し合い、共有できたことは今後の安心につながりました。マイ・タイムラインは簡単に作れますので、皆さんもぜひ作ってみてください。

みんなの話を聞いて、たくさん雨が降ると危ないということが分かりました。逃げる用意をすることは大事だと思いました。



防災士を目指したきっかけは、東日本大震災です。当時は、防災に対する意識も低かったため、自宅にある備蓄品も足りず、小さい子どもを抱えながら、とても苦労しました。その経験から、防災に対する意識が高まり、3人で防災の知識を共有していた中で、より正しい知識を身につけられるよう防災士の資格取得を目指すようになりました。

資格を取得した現在は、地域の子どもたちが自立して家を離れた際も災害時に適切な行動ができるように、小学生を対象に減災に係る啓発活動やイベントに取り組んでいます。子どもたちは、東日本大震災の記憶はありませんが、減災の大切さを素直に学んでくれるので、「自分の身は自分で守る」ということを伝えていきたいです。

災害が起こった時、まず必要なのは、「自助」です。私たち防災士は、その自助の大切さを地域に広める「共助」を担う存在です。率先して自分たちが動き、多くの人の意識を高め、本当に公助を必要としている人に支援が行き届くよう活動していきます。

地域の子どものために

防災少年団の皆さんをご紹介します！

防災活動や地域防災力の向上のために、十分な防災意識と一定の知識・技能を備えた方が取得できる「防災士」の資格。市内では172人(令和4年6月現在)が取得しています。今回は、防災士として市内で「防災少年団」の活動をしている皆さんをご紹介します。



大久保学区内で防災少年団として活動している皆さん。「災害を正しく恐れる」ため、3人で防災士の資格を取得しました。(中央の方は市内で唯一の10代(高校生)の防災士です。)



防災少年団では、地域の子どもたち(小学生)を対象に、「いざという時にどう行動するか」などの話し合いや、備蓄品として何が必要かをみんなの前で発表してもらうなど、防災について「自分で考える」ことを大切にした取組を行っています。また、災害用伝言ダイヤル「171」の使い方の練習や、段ボールベッドの組み立てなど、実際に体験して、子どもたちが楽しく学べる活動を心がけています。

防災士や、防災少年団に興味のある方は、防災対策課にご連絡ください。

日立市の消防団は、地域防災体制の中核を担う存在です。市内全域に配置されている27の消防団が、「地域の安全・安心を守る」という自負を持ち、常日頃から訓練に励んでいます。令和元年10月の台風19号の影響による大雨の際は、河川氾濫の危険があったことから、付近の警戒や土のうを使用し氾濫防止を図るなど、夜通しの活動も行いました。

このような訓練や活動を通じて、私達が常に心掛けていることは地域住民との連携です。空気の乾燥する季節に火災予防のパトロールを行ったり、各地区の自主防災訓練などに積極的に参加し

て、消防団としての知識や経験をもとに大規模災害への備えや対応を呼びかけるなど、地域に密着する組織として具体的な取組をしています。また、常に地域住民の方と顔が見える関係を築くことを意識しながら、地域の防災・減災に関する働きかけを行っています。

そして、これらの活動が市民の皆様浸透し、防災・減災の意識が強化されれば、さらに「災害に強いまち、日立」になると信じています。私たちが日立市消防団は、これからも地域に貢献するとともに住民の皆様のため尽力してまいります。

市民の安全を守る！

消防団の活動をご紹介します！

消防団は、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という精神に基づき、仕事を持ちながら「地域住民の生命、身体や財産を守る」ことを使命として、火災だけではなく、地震、風水害などの災害発生の際に活動しています。

日立市消防団
団長 川井 健一さん



日立市消防団は、水防団を兼ねており、台風や大雨などの際に予想される河川氾濫に備え、毎年5月下旬から6月上旬にかけて久慈川管轄区域にあたる県北5市村（日立市、東海村、那珂市、常陸太田市、常陸大宮市）合同で訓練を実施しています。

また、河川氾濫による堤防決壊が予想される際には、河川沿岸のパトロールや、消防職員と協力して決壊に備えた土のう積みを実施するなど、水害から地域住民を守るための活動をしています。



消防団員を募集しています！

★18歳以上で、日立市に在住または在勤で、心身ともに健康であればどなたでも入団できます。

★入団希望者は、警防課にご連絡ください。

問合せ 警防課

☎ 24-0119

